

平成 29 年度第 2 回あしや子ども笑顔ネット会議録

日 時：平成 29 年 11 月 14 日（火）13 時 30 分～15 時

場 所：あしや市民活動センターリードあしや 会議室 C

出席者：金木友子（精道中学校学校支援ボランティアコーディネーター）

小泉星児（芦屋市商工会青年部）辻本久夫（こくさいひろば芦屋）

長城紀道（芦屋法律事務所）宮平（芦屋市社会福祉協議会）奈良雅美（（特活）

あしやNPOセンター）

芦屋市企画部市民参画課 御宿係長 飯星課員

芦屋市立あしや市民活動センターリードあしや 橋野

1 芦屋 777 プロジェクト最終報告

芦屋 777 プロジェクト報告書及び、振り返り会報告書参照

- ・目的である「子どもたちに企画から携わる」「団体が繋がる」ができた。
- ・8月27日メインイベントの参加者4,500人、ヒーローショーは2,000名であり、円谷プロの予測の3倍強となり、円谷プロからも次回を乞われた。
- ・商工会に感謝の手紙が送られてくるなど大盛況であったが、車椅子の方で、ヒーローショーを諦めて帰られた方があり（対処の方法）残念だった。
- ・イベント後の団体間の繋がりとしては、「精中応援隊への学生の協力を募っている最中」「県立芦屋高等学校の次年度の事業で神戸新聞社との協働」「教職員組合の出演先の広がり」「山手中学校、精道中学校の冬 Café」など動きつつある。
- ・外国にルーツを持つ子どもたちの活躍の場として、母語の新聞発行や、外国人が交流できるようなカフェができたなら、子どもの励みになったのではないか。

2 笑顔ネットの仕組み

- ・芦屋 777 プロジェクトメーリングリスト（ML）を生かし、既存のイベントの広報、ボランティア等呼びかけ、相乗り、アイデアの募集等、気軽に発信しやすい場所とし、フォローをしていく。
- ・MLを生かす方法としては、小さなイベントを常にアップしていく、笑顔ネット委員が発信していく。
- ・イベントや、提言時に団体を連ねるよう繋がりを保つ。
- ・イベントカレンダーの作成については、既存のもの（ためまっぷ等）を生かす方向で考える。
- ・ネットの苦手な人もいる、紙媒体も考えるべきか。
- ・今回の 777 プロジェクトで繋がれなかった人たちについてはどうするか。
- ・次回（2月中）の会議開催までMLを維持し、来年度のネットワークの仕組みを考える。

3 その他

- ・ 777 プロジェクトで繋がった「ポインター号」については、商工会が取り次ぐ。
- ・ 子ども食堂を開くかどうか社会福祉協議会が取り組んでいるようだ。社協の動きを共有し、実際に動く時には、笑顔ネットも協力する。
- ・ 子ども食堂は、夏休みや、給食が無い時期に開いたほうがよい。また、食べる、遊べる、学べるができる場所になれば、子どもは集まりやすい。
- ・ 次回の会議は笑顔ネットMLで調整する。時期は2月中。

【確認されたこと】

- ・ 笑顔ネットのツールの一つとして 777 プロジェクトMLの活用を促進
- ・ 笑顔ネットの役割としてはアイデアを模索する場
- ・ 笑顔ネットテーマは引き続き「子ども支援」

以上